

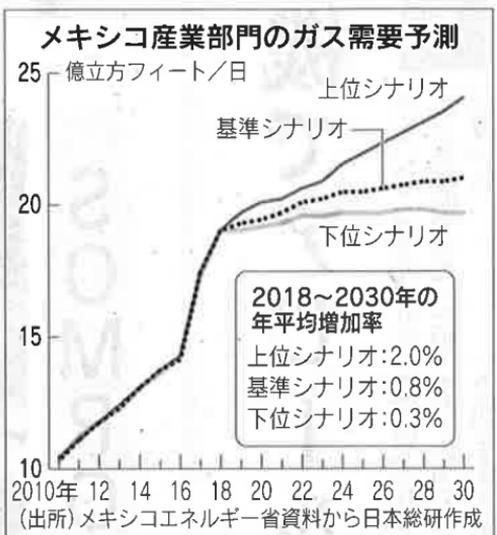
新興国 ABC

メキシコでは、2013年からエネルギー改革を進めている。これまで国営企業が独占してきた電力・石油・天然ガス市場が自由化され、外資を含む民間企業の参入が活発化している。

16年12月には石油の大水深鉱区を対象とする入札で国際石油開発帝石（INPEX）が一部の鉱区を落札。電力でも三菱日立パワーシステムズが天然ガス火力発電所向けのガスタービンなどを

メキシコのガス市場 本格開放

日本総合研究所 リサーチ・コンサル 三木 優氏
ティンク部門 プリンシパル



米国勢、相次ぎ拠点開設

多数受注し、日系企業の存在感が高まっている。一方、エネルギー改革以前のガス市場は、天然ガスの生産（輸入含む）程度だった。

輸送・卸売は国営石油会社ペメックスがほぼ独占しており、卸売・小売から小売りまでのすべて価格も政府によって規制

小売りのみし、需要家へ販売することが可能となった。また、E N A G A S（国家天然ガス管理センター）が容量の一部を入札にかけており、英B Pや化学メーカーのインダストリア・デル・アルカリが落札した。これにより、ペメックスを閉与させずにガス事業ができる状況となった。

例えば、安価な米国産シェールガスを調達し、そのガスを民間企業が容量を確保した幹線パイプラインを通じて輸送し、地域のガス小売業者に卸売するというルートが考えられる。

ただし、現状では、価格規制の撤廃や政省令レベルでの詳細なルールの整備が行われていないため、実際に需要家までガスを供給できるケースは限られている。

17年中には価格規制の一部が撤廃され、政省令やガス取引市場の整備も進むことから、実際に多くの需要家がガス自由化の恩恵を受けるのは18年以降と見込まれている。

それを見越して米国で活躍するガスメーカーが次々とメキシコに拠点を開設したり、言葉の壁がないイベルドローラなどスペイン系企業がガス小売りへ参入したりしている。これら事業者は独自のガス調達ノウハウや需給予測モデルを活用したガス価格を売りにして積極的に営業を始めており、メキシコ・ガス市場

は熱気に包まれている。メキシコ政府がトランプ米大統領の就任を踏まえて見直した、最新の産業部門におけるガス需要予測では、18年以降の伸び率は基準シナリオで年0・8%にとどまるとい

う、悲観的な見通しだ。しかし、米国のシェールガス生産が当面は継続し価格が低位安定することを踏まえると、自由化による競争と相まってガス需要が増加し、上位シナリオ（年2%増加）が現実となる可能性があるのではないかと。ガス需要が増えれば様々なビジネスチャンスが期待できることから、近々開始される北米自由貿易協定（NAFTA）再交渉を横目で見ながら、メキシコ・ガス市場の動向を把握することをお勧めする。

メキシコのガス市場はペメックスがほぼ独占していた（グアナフアト州の精製所）ロイター



規制緩和、恩恵は来年以降

価格規制の撤廃や政省令レベルでの詳細なルールの整備が行われていないため、実際に需要家までガスを供給できるケースは限られている。

17年中には価格規制の一部が撤廃され、政省令やガス取引市場の整備も進むことから、実際に多くの需要家がガス自由化の恩恵を受けるのは18年以降と見込まれている。

それを見越して米国で活躍するガスメーカーが次々とメキシコに拠点を開設したり、言葉の壁がないイベルドローラなどスペイン系企業がガス小売りへ参入したりしている。これら事業者は独自のガス調達ノウハウや需給予測モデルを活用したガス価格を売りにして積極的に営業を始めており、メキシコ・ガス市場

は熱気に包まれている。メキシコ政府がトランプ米大統領の就任を踏まえて見直した、最新の産業部門におけるガス需要予測では、18年以降の伸び率は基準シナリオで年0・8%にとどまるとい

う、悲観的な見通しだ。しかし、米国のシェールガス生産が当面は継続し価格が低位安定することを踏まえると、自由化による競争と相まってガス需要が増加し、上位シナリオ（年2%増加）が現実となる可能性があるのではないかと。ガス需要が増えれば様々なビジネスチャンスが期待できることから、近々開始される北米自由貿易協定（NAFTA）再交渉を横目で見ながら、メキシコ・ガス市場の動向を把握することをお勧めする。